

2024年度 さが わーるどりんぐ 事業報告

佐賀県外国にルーツを持つ生徒交流を支援する会

代表 松下 一世

当団体のミッション

私たちは、ひとりひとりの子どもが自らの国や民族・文化に誇りを持ち、肯定的なアイデンティティを持てるような教育の環境づくりをめざし、総合的な教育支援を行う。これは、教育を受ける権利として、国籍や人種、民族等の違いにより差別されないという子どもの権利条約とSDGsに基づいている。

交流会事業 わーるどりんぐ交流会

参加対象は、佐賀県内の外国にルーツを持つ小・中学生、高校生、およびその家族。

外国にルーツを持つ子どもたちのエンパワメントをめざす。

佐賀大学ボランティアサークル「わーるどりんぐ」の学生が全面協力

佐賀市国際交流協会が協力、佐賀県教育委員会が後援



夏季 7/28(日) 8:30~13:30 本庄公民館

- ★アフリカから来て日本で育った星野ルネさんから話を聞こう
- ★星野ルネさんとふれあい体験をしよう
- ★サンドイッチを作って食べよう

参加人数； 子どもと保護者 47 人、学生ボランティア、スタッフや会員の見学者など含めて、総人数 85 人

ルーツの国； 中国、フィリピン、エチオピア、セネガル、メキシコ、アメリカ、インドネシア、バングラディッシュ、日本

参加内容と子どもたちの様子や感想；



カメルーン出身の漫画家の星野ルネさんがスペシャルゲスト。四歳から日本に来たというルネさんが、自身の体験を描いた漫画をもとに、体験談を語ってくれた。体験談の中では、孤島にいるように感じたこと、学校には天使のような子も悪魔のような子もいたことなど、つらかったことも語ってくれた上で、多文化共生の視点で、人と違っていてもいいという力強いメッセージをくれた。同じような思いをしている子どもたちには、とても共感できる話だった。

子どもたちは、感じたことをワークシートに書き、グループで話し合った。「孤島に一人でいるような実感、共感できた。同じような体験をした仲間がいることを知れたのは心強い」「星野さんも私と同じ経験をしていると聞いて、うれしかったです」「肌の色が違うからじろじろみられるということがたくさんあっていやだったことが、私と同じだった」「星野さんの生き方がかっこいいと思いました」「私も異国では同じ話題が友達とできなくて困りました」「クラスのみんなが星野さんを助けてあげたところが心に残った」「いろいろな国の人人がいてそれぞれの人の考え方と同じじゃなくていいと思いました」などである。質問タイムでは、「いじめられたことはありますか」「そのときどうしましたか」「国旗の意味は何ですか」などが出た。

そのあとは、カメルーンのおにごっこや世界のじゃんけん、日本の「だるまさんがころんだ」など、楽しく遊んだ。最後は、みんなでサンドイッチを作りおいしく食べた。

冬季 12/15(日) 8:30~13:30 本庄公民館

★世界の遊びをしよう

★いじめのない学校にするために考えよう

★ケーキ作りをしよう



参加人数； 子どもおよびその保護者40人、学生ボランティアやスタッフ、学校の先生方を含めて総人数 71 人

ルーツの国； 中国、タイ、韓国、ベトナム、フィリピン、バングラデッシュ、ネパール、インドネシア、エチオピア、セネガル、日本

参加内容と子どもたちの様子や感想；



ベトナムの鬼ごっこや中国のへびのしっぽとり、アメリカのダックダックグース、ホットポテトなど、楽しく遊んだ。した。保護者さんも協力して遊びを教えてくれた。

いじめについては、最初に、いじめについての作文を Y さんが読んでだ。いじめを許せないという思いがあふれていた。その後、いじめについての学習をおこなった。いじめはどんな特徴があるか、どれがいじめか、いじめを見たらどうするか、いじめられたらどうするか、考えて、グループワークをして各自発表した。感想は、「外国人だからいじめられても仕方がないと思っていたけど、いじめられるほうは悪くないということがわかった」「いじめられる側には、自分でどうしようもない生まれつきのものがある。それは、間違っていると思う」「もしいじめられている人がいたら、やめろって言う」「もし自分がいじめられたら、先生や親に相談する」などが出た。

その後、みんなで楽しくケーキ作りをした。

春季 3/20 (祝・木) 8:30~13:30 本庄公民館、本庄公園

★みんなで遊ぼう

★インドネシア文化について学び、インドネシア料理を作ろう

★お花見に行こう



参加人数； 子どもおよびその保護 34 人、学生ボランティアやスタッフ、学校の先生方を含めて総人数 56 人

ルーツの国； 中国、タイ、韓国、ベトナム、フィリピン、ネパール、インドネシア、セネガル、マレーシア、日本

参加内容と子どもたちの様子や感想；

今回は、インドネシアの文化や宗教、料理、遊びを学びました。学生たちが調べたことを発表してくれた後、ハラル料理やラマダンについて、保護者の R さんからも説明してもらいました。その後、みんなで、ナシゴレン作りに挑戦しました。大きい子どもたちは目玉焼きを焼いたり、小さい子どもたちも鶏肉を割いたり、レタスをちぎったり、ソーセージを切ったりしました。そしてお弁当パックに入れて、出来上がり！ おいしそうなナシゴレン弁当です。みんなで公園に行って、お弁当を食べて、走り回って遊びました。インドネシアのおにごっこもしました。子供たちの感想は、「インドネシアのことを学べてよかったです。おにごっこがおもしろかったです」と言っていました。



<全体を通しての成果>

年間を通して、延べ参加人数は、212 人であった。参加した子どものルーツの国は、中国、フィリピン、ベトナム、ネパール、インドネシア、韓国、タイ、マレーシア、セネガル、エチオピア、バングラデッシュ、アメリカ、メキシコ、そして日本の 14 か国。

学習支援事業 わーるどりんぐ放課後学習会

日時 ; 毎週水曜日の 18 時～20 時 TOJIN 館 2 階の和室にて実施

参加対象 ; 外国にルーツを持つ中学生と高校生（日本語指導対象者に限らない）

現在の参加者 中学生…インドネシア(1)、ネパール(1)、中国(4)、フィリピン(1)

高校生…中国(1)、ネパール(1)

学習支援員 ; 松下と、周、学生ボランティア 14 人。研修は定期的に実施。

<目的>

学力面…高校に進学できる学力をつける。高校を中退することなく卒業するためのサポートをする。

精神面…孤立感や葛藤を抱えている子どもにとって、居場所としてコミュニケーションの時間をとる。

<方針>

●一人一人の個に応じた指導計画を立てる。マンツーマン指導をする。

●受験生には、特別対策として、訪問支援を実施する。

●パソコンやタブレットを使って、多様な教材を活用する。

<成果>

放課後学習会は、年間 44 回実施。

受験生 4 人には、特別対策として訪問支援述べ 31 回を実施。

学習支援は、訪問支援も含めて、延べ参加人数は、282 人。

高校進学、大学進学の結果は、全員、志望校に合格。



セミナー事業 多文化共生教育オンラインセミナー

目的 : 多文化共生教育について考える

日程 9月5日(木) 16 時 40 分～18 時

内容 : 星野ルネさん講演 演題「偏見を捨てて、違いを楽しもう！」

対象 : 学校教職員など 34 人 そのうち佐賀県内は 61.5%

内容と感想 :

偏った情報でラベリングしないこと、ステレオタイプで人を見ないこと、ひとりひとり人は違う、日本人の生徒たちも一人一人違いがあることを理解しようという内容であった。参加者はほぼ満足度 100% であった。感想の一部を紹介する。課題は、佐賀県内の教職員の参加が少なかったことである。

- ・ 違いが前向きであれば、差別は起きないという言葉に感銘を受けました。最後の質問的回答で、新たなカムラーンCMの素敵などころが知れました。私は「人を通してしかその人の国を知らない」と思っていて、今日もこれに触れられたと思いました。
- ・ 大変、有意義なものでした。大人がよきロールモデルとなって、子どもたちにグローバルな視点を持たせることいかに大事か、改めて考えさせられました。そのためには大人が学び続けるといけないし、学ぶ機会があれば積極的に参加しようとする人がどんどん増えたらいいなと思います。

相談支援事業

方針 ; 保護者の相談に応じる。学校との連携を強める。相談内容によっては、他団体とも連携する。

年間の相談件数 ; 延べ 23 件

内容 ; 進路、国籍取得、いじめなど。保護者だけでなく、校長や担任、国際交流協会とも連携した。

成果 ; それぞれの問題は解決した。

調査研究事業

昨年度末に引き続き、外国にルーツを持つ中学校卒業生の進路調査を行う。報告は次年度行う。